

簡」関係文献は8に掲げる三冊で、二〇〇〇年度をもって報告を完了した。

## 8 関係文献

(財)長野県埋蔵文化財センター『長野県屋代遺跡群出土木簡』(一九九六年)

同『更埴条里遺跡・屋代遺跡群―古代1編―』(一九九九年)

同『更埴条里遺跡・屋代遺跡群―総論編―』(二〇〇〇年)

(水沢教子・傳田伊史)

## 群馬・前橋城遺跡(第一九号) まえばしじょう

- 1 所在地 群馬県前橋市大手町
- 2 調査期間 第五次調査 一九九四年(平6)四月―一〇月
- 3 発掘機関 群馬県教育委員会
- 4 調査担当者 赤山容造・巾 隆之・相京建史・桜岡正信・井川達雄・藤巻幸男・片野雄介・高島英之ほか
- 5 遺跡の種類 集落跡・城跡
- 6 遺跡の年代 九世紀―一九世紀
- 7 木簡の釈文・内容

発掘調査は一九九二年一月から一九九六年五月まで七次にわたって行なわれ、木簡は一九九三年四月から一〇月まで行なわれた第三次調査で検出された一号井戸から一点(本誌第一九号)、一九九四年四月から一〇月まで行なわれた第五次調査で検出された七号井戸から二点(本誌第一七号)、一五号井戸から一点(本誌第一九号)、六九号井戸から七点(本誌第一九号)の計一一点が出土している。紀年銘を有するものは一点も無いが、遺構の状態や伴出遺物などからいずれも近世のものと考えられる。

今回報告するのは、第五次調査で検出された六九号井戸から出土した木簡のうち、その後の整理作業の中で確認され、本誌で未報告

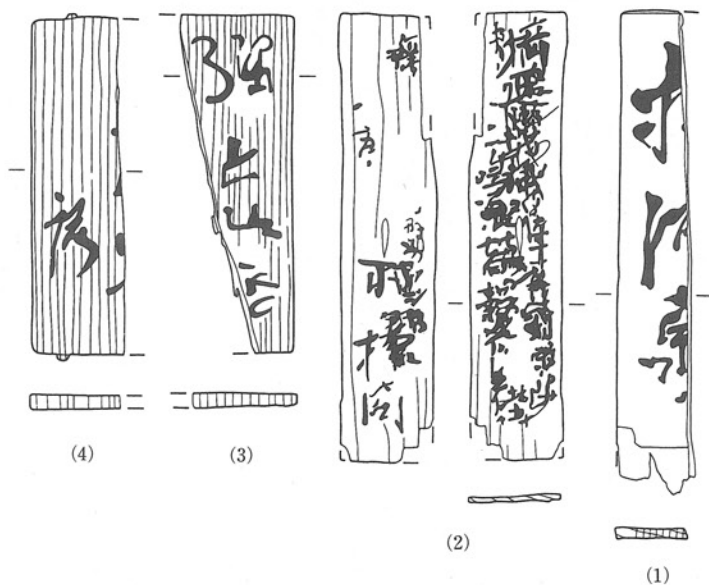
であった六点についてである。

木簡は確認面から深さ三〜四m付近の人為的埋土から出土した。

遺物の様相から最終的に近代になって埋められたことがうかがえる。

- |     |                  |                  |     |
|-----|------------------|------------------|-----|
| (1) | 〔撰河泉カ〕<br>□□□    | (239) × (36) × 5 | 081 |
| (2) | 〔埼埼城城カ〕<br>□□□□□ |                  |     |
| (3) | 〔強力〕<br>□□□□□    | 222 × 46 × 4     | 011 |
| (4) | 〔房カ〕<br>□□□□□    | 168 × (56) × 8   | 081 |
| (5) | □□□□□□□□         | 167 × (46) × 8   | 081 |
| (6) | □□□□□□□□         | 173 × (40) × 9   | 081 |
|     | □□□□□□□□         | (115) × (49) × 5 | 081 |

今回報告するものには断片が多く、木簡の内容や用途・機能が判るものはほとんどない。(1)は下端部及び右側面部が欠損。裏面は未調整である。文字は、現状で表面に三文字分確認できる。(2)は、左右側面及び下端部の一部が欠損しているが、概ね原形をとどめてい



る。習書で、多数の文字を重書する。近世の習書木簡は極めて珍しい。

# 8 関係文献

群馬県教育委員会『前橋城遺跡Ⅱ 群馬県庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(一九九九年) (高島英之)